

協議会の諸活動や組織体制の見直し

【目次】

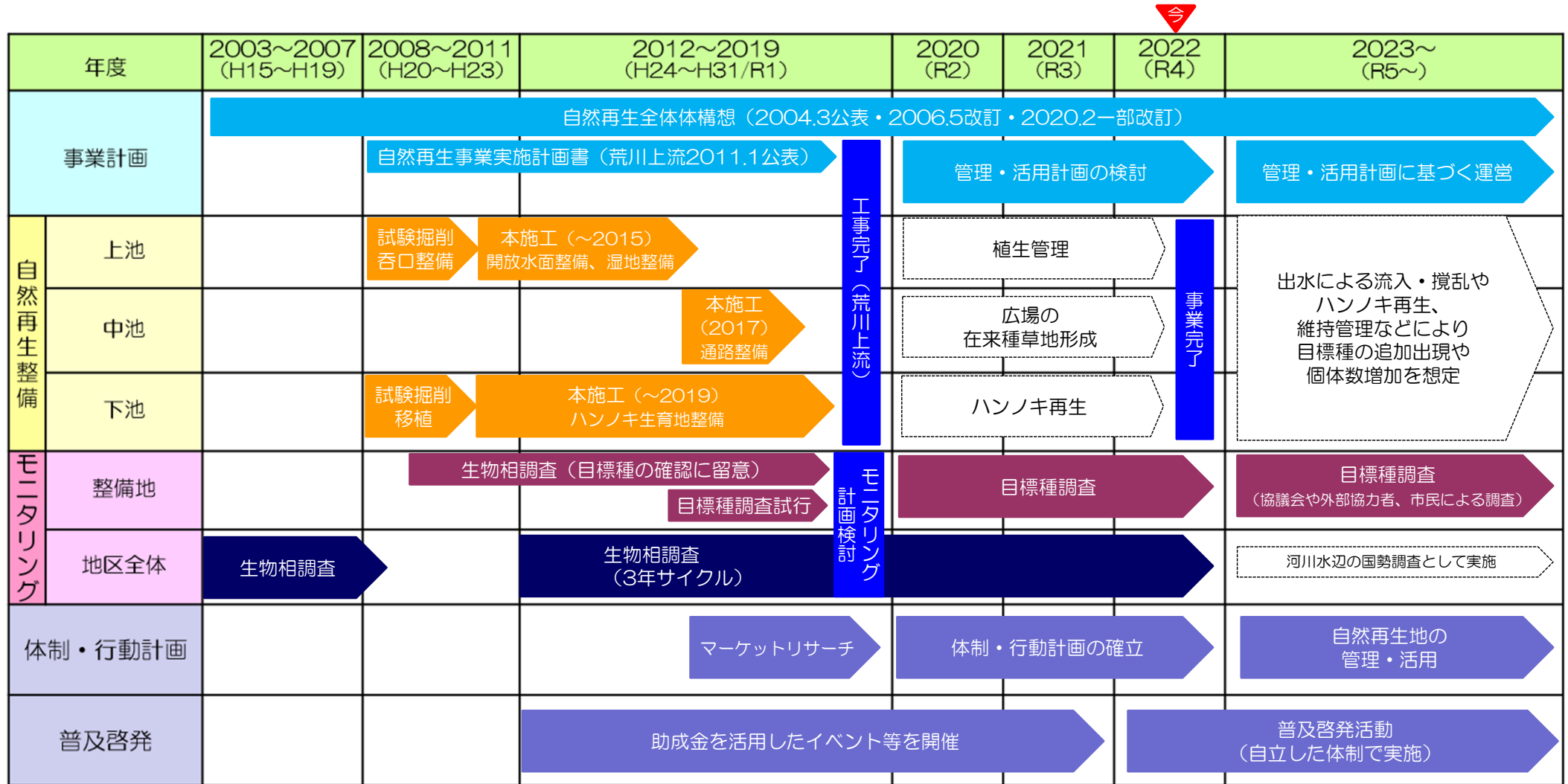
1. 荒川太郎右衛門地区自然再生事業ロードマップ・・・・・・・・P2
2. 協議会の諸活動や協議会組織の課題・・・・・・・・P3
3. 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の組織体制・・・・・・・・P4

【堂本委員長】

- 2023年度以降の計画案です。
- 詳細は事務局より説明をお願いします。

1. 荒川太郎右衛門地区自然再生事業ロードマップ

荒川太郎右衛門地区自然再生事業のロードマップ

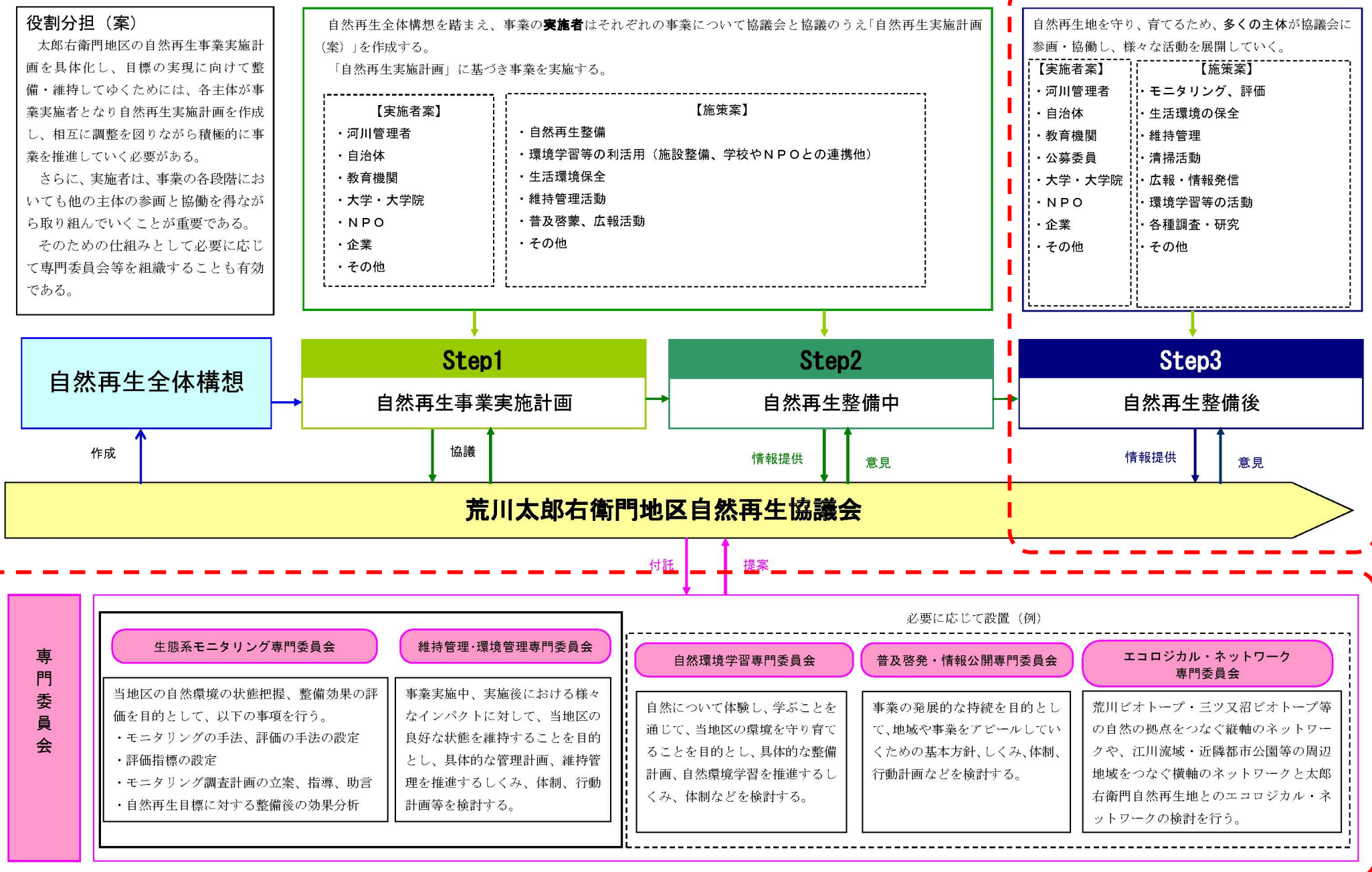


2. 協議会の諸活動や協議会組織の課題

分類	現状	課題	方針(案)
ブレイン	参加メンバーは固定化されている。	<ul style="list-style-type: none"> メンバーの年齢構成に偏り 協議会運営の自立 	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が参加する仕組みづくり 協議会組織の刷新 地元自治体との連携強化 イベントのパッケージ化／協議会委員による運営
維持管理作業の人手	企業連携や一般ボランティア募集など、筋道が見えたところ。	<ul style="list-style-type: none"> 参加企業を飽きさせない／新たな企業の確保 平日作業は参加者が限られる 一般ボランティア募集は、運営事務局の作業負担が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> 活動成果の見える化 企業との関係性の深化 土日や早朝の維持管理作業 ボランティア活動の定例化
自然再生地モニタリング	業務によるモニタリング調査を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング成果の総括 R5年度以降のモニタリング方法 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング項目・内容の見直し 協議会委員による調査 市民/学校/企業との連携調査 業務による最低限の調査
庶務	運営事務局(荒上)および運営補助業務を受託したコンサルタントが協議会庶務を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 日程調整、出欠確認、メール後に連絡ない方へ電話確認など、連絡調整に割く時間が多い 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションツール導入 省力化した運営事務局のリソースを新たな活動に投入
組織体制	協議会、運営委員会、生態系モニタリング専門委員会、維持管理・環境管理専門委員会、イベント実行委員会を開催している。年10回程度。	<ul style="list-style-type: none"> 会議開催回数が多い。 参加する協議会メンバーは概ね同じであり負担となっている。 会議は平日の昼間の開催である 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会組織のスリム化 トータル会議回数の減による協議会メンバーの負担軽減 会議開催方法の検討
資金	協議会活動の大部分を委託費に依存している。サイサン環境基金は、一部の活動を賄う程度。今後、セブン財団との取組みが成就する。	<ul style="list-style-type: none"> 支出の抑制 <ul style="list-style-type: none"> 会議会場確保に費用が発生 イベント損失の穴埋め 協議会の独自資金の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 会議は無償会場やWEB会議 主催イベントで募金箱設置 クラウドファンディング NPO法人格の取得

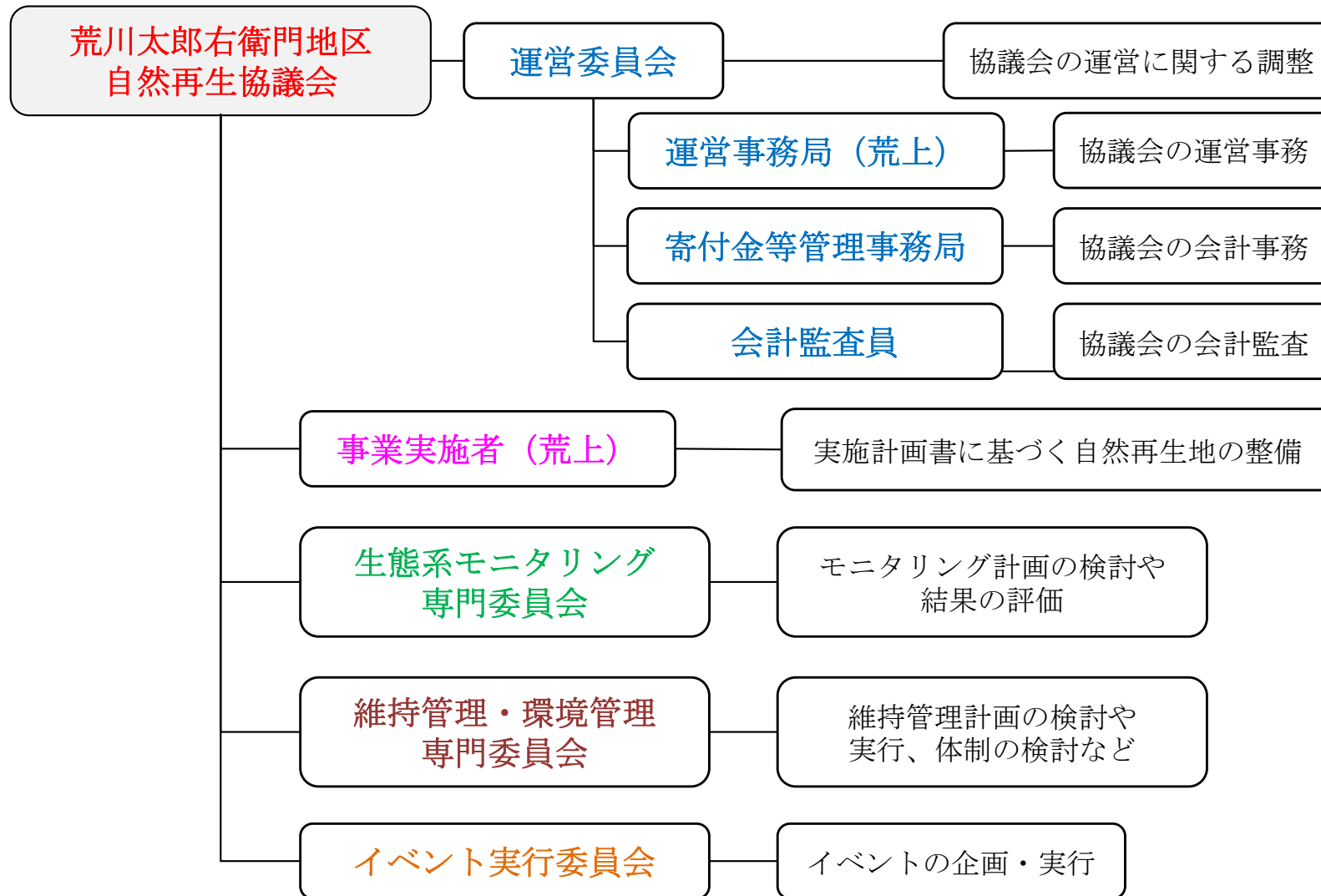
3. 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の組織体制

全体構想に掲げられた将来イメージ(P61)



3. 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の組織体制

R4年度(現在)



《第51回協議会(2022年3月1日)協議決定》

今後の協議会運営は身軽で効率的なものとしていくことが必要である。

- ・広報ワーキングはイベント実行委員会へ一体化
- ・大きな視点から検討が必要となる広報活動は、他の委員会とも係わることから運営委員会で取り扱う